

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	2191800016		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	グループホーム 土岐ケアセンターそよ風		
所在地	土岐市肥田浅野元町2-24 (電話) 0572-54-0622		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成20年9月24日

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 31 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	15 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:1年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 31 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人ブレイン土岐内科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新しい法人に経営が移行したホームであるが、利用料の改定を除けば、事業内容は継続されている。利用者の暮らし振りや、家族の思いはこれまでと変わらず、安定した運営が期待されている。法人の切り替え時には、職員の離職も見られたがほとんどが再雇用となり、馴染みの顔ぶれが確保されている。地域の環境資源に恵まれた立地にあり、外出や買い物での行き帰りには馴染みの人々と語らいながら、地域に受け入れられ、地域の一員としての営みがある。新しい取り組みでは、園芸福祉士が常時ボランティアで訪れ、ホーム周辺の花木を管理している。利用者も一緒に花の手入れに加わり、癒され、心温まる園芸セラピーの取り組みがある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前は、前法人所属での外部評価であったが、特に改善課題はなかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前法人の業務運営を引き継いだ新管理者の下での自己評価では、改善課題を十分に認識し、サービスの質の向上のため、前向きに取り組む意欲を示している。その実現のためには、新管理者による運営管理体制が安定するまでの、時間的な経過も必要である。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、3ヶ月毎に行われ、ホーム運営上の意見交換が討議され、参加家族からも改善意見が述べられている。前法人の頃は、行政担当者が会議に出席していたが、人事異動のため中断されている。民生委員や自治会役員等の参加も得られていないので、運営推進会議参加メンバーの再構成が検討課題となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からは、運営推進会議や訪問時に、意見や苦情が多数寄せられている。家族の信頼向上を目指し、苦情対応の仕組みを整え、職員の意識改革を徹底し、再発防止とステップアップに繋げている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 園芸福祉士が、無償で庭や外周の花木の手入れを利用者も参加して実施している。毎月の音楽療法士の訪問、毎週のヨガ教室、小学児童の受け入れ、地域イベントへの参加などで地域と交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしい暮らしを支えるために、「笑みのある心のケアを第一に」の理念を掲げ、その実現に向け取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝の送りや、ミーティングで唱和し、理念の共有を図り、実施状況を検証しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所に協力的な大家がおり、地域との架け橋となっている。散歩の行き返りでの挨拶、農産物の収穫、差し入れも日常的である。また、自治会にも加入しており、各種行事に参加することで交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業経営法人は変更されているが、管理者・職員の雇用は引き継がれており、評価の意義や理解、改善に向けた取り組みについての方針も、継続されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月毎に開催されているが、行政職員、民生委員、自治会役員等の参加が得られていない。前法人で行われた会議の参加者は引継がれていない。	○	運営推進会議の有用性を最も理解する立場の行政に、参加の要請を行うと共に、地域の関係者への働きかけを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からは、毎月介護相談員を受け入れているが、市担当者との連携による取り組みは事例も少なく、十分とは言えない。	○	ホーム側から、相談や協力要請、情報提供等を積極的に行い、関係作りに努められたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者全体の暮らし振りやホームの様子、金銭出納の状況を報告しているが、利用者個々の状況は、家族の訪問時にのみ口答で報告している。	○	文章による個別の報告は、家族が受ける印象をよくするとともに関係づくりにも繋がるので、報告様式も工夫し、取り組まれたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来訪時、家族からは、サービスに関する意見が多数出されている。職員会議で検討・記録し、家族に回答すると共に、速やかに改善策を講じている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業主体が変更したことにより、一時的に退職者がでたが、再雇用者もあり、利用者への影響は最小限に留まっている。新任の場合は、利用者との良好な関係作りを最優先させている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、できるだけ1名の受講ができるように計画されている。協力医院の精神科医が行う毎月の研修会にも常時参加している。今年度の介護福祉士試験には5名が申し込んでおり、自己研鑽も見られる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	過去に地域の同業者が行っている終末期のケアを学んだ例はあるが、継続的な交流は検討中である。	○	相互訪問等の機会をつくりながら、良い面を吸収し、サービスの質の向上に活かせるよう同業者との交流にも努められたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の協力を得ながら、系列のデイサービスやショートステイの利用から入居に至るケースが多い。見学の機会も多く提供し、レクリエーションに参加してもらうなど、雰囲気づくりにも工夫がみられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意欲を引き出しながら、家事の手伝いや庭の手入れなど一緒に行いながら、感謝の言葉を掛け、寄り添い、支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者2名の担当制を取っており、言動や表情から、快・不快、好き嫌い、喜怒哀楽など、敏感に細かく把握ができています。意向の把握が困難な場合は、家族と相談しながら検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、ケア会議で課題を検討し、本人・家族や主治医、薬剤師などの関係者と話し合い、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のケア会議で状態を把握し、3ヶ月毎に定期的見直しを行っている。変化が生じた場合は、本人・家族と話し合い、随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医院への受診の支援、散髪、買い物などの送迎支援、家族の事情による総合病院への通院介助を支援している。お盆には、1名の外泊支援があった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに位置する提携医院からは隔週に往診を受けている。特定疾患の利用者には、総合病院の、かかりつけ医へ通院介助を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の対応は、主治医と連携しながら、受け入れ機関への転居を当面の方針としている。家族への説明は口頭で行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	不適切な言葉掛けを家族から指摘され、反省と再教育が徹底されている。プライバシーに配慮した言葉掛けに努めている。個人情報の記録等は所定の場所に保管、管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、それ以外は、本人の自由に選択できる時間となっている。花の水やり、ソファでの談話、入浴、昼寝や散歩も本人のペースに添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備から、配膳、片付け、食器洗い、食器拭きなど利用者と職員が協働で取り組み、食事中は、職員も一緒に食事を摂りながら、楽しい会話で雰囲気盛り上げている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて、毎日入浴ができるように支援している。拒否のある人は、翌日になったりするが、本人の希望を優先させている。仲の良い利用者同士は、楽しく一緒に入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取り、花の水やり、野菜の収穫、雑巾作り、編み物、書道などを楽しんでいる。買い物、喫茶、外食も気分転換になっいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝周辺を散歩したり、庭の手入れ、畑で野菜の育ち具合を見たり、自然と外気に触れるように支援している。時には、遠方の道の駅までドライブしながら、外食の機会もつくり支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。よく出かける人は特定されており、事前に察知しながら、職員も一緒に出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、年2回の避難訓練を実施している。夜間の自主訓練、地域との協力体制については、今後の取り組み課題となっている。	○	行政や自治会、近隣の協力を得ながら、災害対策の体制づくりに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量は、チェック表で管理している。糖尿病の人には薄味にしたり、個々の症状に対応している。栄養バランスにおいては、法人本部より配布されたカロリー計算書を基に献立に反映させている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間には、ゆったりくつろげるソファがある。畳のコーナーでは、横になることもでき、癒しの空間となっている。玄関には季節の花々が、廊下壁面には装飾品がさりげなく配置されている。居室のドアには、職員が描いた利用者の似顔絵が表示され、目印になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品、家族の写真や手紙が持ち込まれている。中には仏壇が持ち込まれ、利用者にとって居心地の良い居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。